

一月二十八日(水)

文学部

平成二十七年 度 金沢学院大学 入学試験問題（一般入試前期）

# 国 語

## （注意事項）

国語と記入・マークした解答用紙に解答してください。  
問題は持ち帰ってもよいが、法律上コピーして配ってはいけません。

## （解答上の注意）

解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、10と表示のある問いに対して④と解答する時は、下記の（例）のように解答番号10の解答欄の④にマークしてください。

（例）

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1〜8)に答えよ。

「学校」を批判するさまざまな言説がある。「学校教育を導いているのは、結局は資本の要求する『生産性』というモノサシだ。そのもとで生徒たちは競争させられ、ついてこれないものや疑問を抱くものは切り捨てられる。学校とはこのような巨大な選別のシステムなのだ」。また、「学校とは、生徒を規律正しくふるまうことのできる存在へと調教するものであり、『規律権力』が働く場である。たとえば試験というものを用いれば、生徒をいちいち監視しなくても試験前には勝手に勉強するようになっていく。つまり学校とは、監視の目を主体に内面化させ、自分で自分を監視するようにさせる<sup>①</sup>。コウミヨウなシステムなのだ」。

前者は(注1)マルクス主義的な資本主義批判、後者は(注2)ミシェル・フーコーの言説だが、これらを耳にするとき、かつての学校時代を思い出して、「うーん、そうかもしれない」と思ってしまう人も少なくないだろう。そして、それとはちがう、ほんらいあるべき教育<sup>②</sup>を思い描くと、(a)「子ども本来の個性をのびのびと実現させることを目標とすべきであって、競争の圧力のもとに子どもをさらしてはならない」というようなものになってくる。

こうして、「個々人の自由」(自由にみずからの欲求や個性を実現する)と、「社会の一員になること」(仕事に就いて能力と知識を發揮する)とは対立的にイメージされる。しかしこうした『理想的な教育論』は、「やっぱり勉強していい大学に行くほうがいいに決まっている、そのほうが社会で活躍できるし高い給料をもらえるのだから」という『現実的な意見』を完全には説得しえない。こうして「<sup>⑦</sup>二つの教育観は対立しつづけることになる」。

でもなぜ、このような学校批判の言説が生まれてきたのだろうか？ 近代初頭から大づかみに歴史をたどってみよう。

近代以前の社会では、個々人は身分とそれに応じた役割に<sup>③</sup>コウソクされていたが、近代は広く個々人の「自由」<sup>④</sup>各人が各自の生き方を自由につくってよいという理念、が成り立つ。それと同時に、自由に生きたいと願う点ではどんな人でも対等(平等)である、という理念も成り立つ。こうして個々人は、自分の意志で企業に入ったり、自分たちで起業したり、さまざまなサークルをつくって楽しんだりできるようになる。社会全体も『対等な人びと(市民)』によってつくりあげられる秩序<sup>⑤</sup>とみなされて、都合が悪ければ改変できるようになる。

ところが、この「自由な市民からなる社会」という理念は、一九世紀に大きな障壁にぶつかる。資本主義と国民国家である。最大限の<sup>⑥</sup>リジユンを求めて運動する資本は極端な貧富の差をもたらし、(b)『新たな市場と安い労働力・原材料を海外に求めて植民地獲得競争(戦争)を引き起こす。どの国家も富国強兵策をとり、教育を国民に広く行き渡らせて、集団的統率のもとに動く優秀な労働力を大量につくりだそうとする。——ここに、「教育とは調教である」という見方が出てくる理由がある。』

日本ではとくに後発国として近代化を押し進める必要があったため、「自由な独立した市民へと教育する」という観点が弱く、「優秀な労働力をつくる」という観点での学校教育が行われ、その面ではかなりの成功をおさめてきた。

(c) 八〇年ころを境にして「後発近代」が終わり、いま私たちの多くが「知識を教え込む・有無をいわさず規律に従わせる・全員が競争させられる」といったこれまでの教育に大きな疑問を抱いている。それは私たちが、「他者を傷つけないかぎり、一人ひとりが自分の快樂と欲望を追求してよい」という自由の感覚を手にしてしまったからだ。そして、「問答無用で規律に従わねばならない」

といった組織や集団のあり方をオカシイと感ずるようになってきた。

① そうだとすれば、私たちは「自由な市民からなる社会」という近代初発の理念をあらためて見直してよいことになる。個々人の自己決定の自由が尊重されるだけでなく、ともに場面をつくりあげ活動していく自由がイキイキと展開される社会、という理念である。そしてそれは、「自由な主体を育てるための教育」という近代の教育理念の見直しにつながっていくはずだ。たとえば一九世紀初頭のドイツの哲学者（注3）ヘーゲルは、教育の目的を人間の「内なる自然」（＝個性）の發揮にみる教育観にハッキリと反対し、「独立した自由な人格」を育て「社会生活における自由」を実現することが教育の目的であると考えた。

ここではヘーゲルを解説することはやめて、ほくなりに「社会生活における自由」のために必要な条件を考え、列挙してみる。

第一に、将来の社会の一員として必要な、基礎知識。それがないと、「職業選択の自由」も実質的には④ ホシヨウされなくなる。第二に、社会や集団を営む能力。しかしそれは単に集団のルールに従うことではない。自分たちでルールをつくって守ったり、都合の悪いことがあれば、ルール変更の提案をして他者を説得する、そういった能力が必要になる。

第三に、みずから人生を形づくりうる主体性。言い換えれば、「自分なりの価値観」を育て、みずからそれを表現できる力。批判的思考力や個性ということもここでは大切になってくる。

⑦ こうしたことを教育の目標と考えてみれば、「自由」と「社会の一員」とを対立させる必要はなくなる。この二つを⑤ ガンキヨウに対立させる思考法からは、積極的な教育のプランも社会の構想も生まれえないと思う。

次に、学校というものの必要性について、あらためて考えてみよう。

まずは、近代以前の社会のあり方をイメージしてみる。すると、教育の主たる目的が、子どもに、その時代のなかで生きていくために必要な能力——武士だったら剣術、商人だったらソロバン——を身につけさせることだった、ということがすぐにわかる。

A

また国内ならば自由に移動することもできるし、自由に起業したり、趣味やボランティアのサークルをつくって活動することもできる。つまり、近代社会では一人ひとりの「自由」という理念が大切にされ、さまざまな自由な活動がホシヨウされている。そしてそれに対応して、社会の側も、不特定多数の人びとやモノや情報がさまざまに行き交う空間となっているのである。

不特定多数の人間たちと関係を取り結んで生きていくためには、特定のコミュニティのなかでしか通用しないローカルな知識やルール感覚とはちがった、より一般的な知識や技能やルール感覚が必要とされるはずだ。「職業選択の自由」という点からみても、やはり一般的な知識（＝直接に何に役立つのかはわからないような種類の知識）をある程度身につけておくことが必要なのであって、それを欠くと、本人が専門的な職業に就きたいと思つたときに苦勞することになる。

そこからみると、学校という制度は、「一般的な知識と一般的なルール感覚」を身につけさせるために要請されたものである、と考えることができる。

（d）、知識はインターネット学習でも獲得できるようになってきたが、ルール感覚についてはそうはいかない。先ほども述べたように、ただルールに従ったり集団に同調したりするのではなく、必要なルールを取り決めたり、不都合だと思われるルールの改変を提案したりできるような、集団を営む能力——近代的な意味での一般的なルール感覚——を育てるのは、（e）学校という場の課

題であるはずだ。いまの学校がその機能を充分果たしているとはいえないとしても。

もう一つ、近代社会において重要なポイントがある。自由が認められるということは、自分でもって生き方をつくっていかねばならない、ということの意味する。「何がよく何が悪いことなのか、どういうことが価値ある生き方といえるのか」。近代社会において、人は（とくに青年期には必ず）そういう問いを抱え込む。

大学は、社会と人間について問いながら「自身の生き方」を考える場所でもあった。有用な知識の獲得ということを超えて、「みずから問い・考え・議論しあう」という、主体的な知の営みの場。しかしいま、多くの大学が、資格取りのための「専門学校化」しつつある。

学校を否定したり無用とみなす論もある。しかし自由の理念を私たちが守り育もうと思うのなら、学校を「B」とみなしたうえで、具体的にはどう機能すべきかを考えたほうが生産的であると思う。

（西研「教育と社会を哲学するために」、荻谷剛彦／西研『考えあう技術―教育と社会を哲学する』筑摩書房による。出題にあたり、一部改変した。）

注 1 マルクス主義……思想家のマルクスおよびエンゲルスによって確立された、社会主義思想体系のひとつ。

2 ミシエル・フーコー……フランスの哲学者。知と権力の関係などについて言及した。

3 ヘーゲル……ドイツ観念論を代表する思想家。現代思想の先駆的哲学者で、その思想はさまざまな分野に影響を与えた。

問1 傍線部①～⑤に当たる漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 1 ～ 5。

① コウミョウ

- ① セイコウ業が盛んな町  
 ② 攻撃的なセイコウがある  
 ③ 悪いセイコウが目立つ学生  
 ④ セイコウな時計  
 ⑤ 党のセイコウを掲げる

② コウソク

- ① 気温をハカる  
 ② ツカの間の夢  
 ③ 法にノットって裁く  
 ④ 気分がフサク  
 ⑤ 注意をウナガす

③ リジュン

- ① 法令をジュンシユする  
 ② ジュンスイな心  
 ③ ジュウジュンな犬  
 ④ ホウジュンな香り  
 ⑤ シツジュンな気候

④ ホシヨウ

- ① ショウコを集める  
 ② 電波ショウガイが酷い  
 ③ ホウショウ金を受け取る  
 ④ ショウガイ業務に就く  
 ⑤ コウショウを襟につける

⑤ ガンキョウ

- ① イワが崩れる  
 ② キビしい意見  
 ③ カタクなに拒む  
 ④ ボートをキシに寄せる  
 ⑤ 火のモトに注意

問2 空欄（ a ）（ e ）に入れる語として最も適当なものを、次の①～⑧のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は a 〓 6、b 〓 7、c 〓 8、d 〓 9、e 〓 10。

- ① さらに ② ところで ③ しかし ④ つまり ⑤ やはり ⑥ もっとも ⑦ だから ⑧ たとえば

問3 傍線部ア「二つの教育観は対立しつづけることになる」とあるが、ここでいう二つの教育観とは何を指すか。組み合わせとしてもっとも適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 11。

- ① マルクス主義的資本主義批判における「学校」の概念とミシエル・フーコーの言説。  
② マルクス主義的資本主義批判における「学校」の概念と「現実的な意見」。  
③ 「ほんらいあるべき教育」と「理想的な教育論」。  
④ 「現実的な意見」とミシエル・フーコーの言説。  
⑤ 「理想的な教育論」と「現実的な意見」。

問4 傍線部イ「そうだとすれば、私たちは「自由な市民からなる社会」という近代初発の理念をあらためて見直してよいことになる」とあるが、これは近代初発の理念にどのような態度で向き合うということか。もっとも適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 批判する ② 修正する ③ 改善する ④ 分析する ⑤ 回帰する ⑥ 啓蒙する

問5 傍線部ウ「こうしたことを教育の目標と考えると、「自由」と「社会の一員」とを対立させる必要はなくなる」のはなぜか。もっとも適当なものを次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- ① 著者が考えた教育の目標は、「自由」と「社会」とを一体化させた、著者独自のまったく新しいものだから。  
② 著者は「社会の一員」であることと「（個人の）自由」をまったく別の物とみなし、両立をあきらめたから。  
③ 著者が提唱する教育の目標では、「（個人の）自由」は「社会の一員」として実現されるものとしているから。  
④ 「個性」の実現に否定的なヘーゲルが提唱した最新の画期的な教育の目標を、そのまま踏襲したものであるから。  
⑤ 「自由な独立した市民へと教育する」という観点が弱かった日本の教育を見直し、目標を補完してあるから。  
⑥ 「優秀な労働力をつくる」という社会的要請を達成したため、新たに「自由」を育む内容を盛り込んだから。

問6 次の①～⑦の文は、本文の空欄 A に書かれていた文である。筋が通るように正しい順序に並べ替え、2番目、4番目、6番目の番号をそれぞれ答えよ。解答番号は2番目＝14、4番目＝15、6番目＝16。

- ① さらに、生まれて死ぬまで同じコミュニティのなかで暮らす人が多かった。
- ② それに対して、近代の教育は、小学校から大学までという「学校」中心のものとなっている。
- ③ では、そもそもなぜ学校が必要とされたのだろうか？
- ④ 近代以前の社会では、職業はおのずと定められていることが多く、選択の幅はきわめて小さかった。
- ⑤ そこでの教育は「なんのためか」もわかりにくいし、かつその期間はひどく長い。
- ⑥ それに対して近代社会では、人びとは自由に職業を選択できる。
- ⑦ 「これは、お前が将来生きていくために必要なことなのだよ」という大人の側からの理由づけは、子どもにとってもわかりやすく、納得しやすいものだっただろう。

問7 傍線部(E)について、著者が考える、大学で身につけるべき「一般的な知識と一般的なルール感覚」とはどのようなものか。該当するものに①、該当しないものに②をマークせよ。解答番号は17～24。

- ① 特定のコミュニティのなかでのみ通用するローカルな知識
- ② 特定のコミュニティのなかでのみ通用するルール感覚
- ③ 直接に何に役立つのかはわからないような種類の知識
- ④ 必要に応じてルールを作ったり、改変する能力
- ⑤ 専門的な職業に就く際に、必要となる知識
- ⑥ インターネットで知識を収集する能力
- ⑦ ルールに従い、集団に同調する感覚
- ⑧ 集団を営む能力

17 18 19 20 21 22 23 24

問 8

空欄

B

に入れるのにもっとも適当な語句を、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は

25

。

- ① 「自身の生き方」を考える場所
- ② 優秀な労働力をつくるための制度
- ③ 問答無用で規律に従わねばならない場所
- ④ 自由な社会生活を可能にするための制度
- ⑤ 仕事に就くための能力と知識を身につける場所
- ⑥ 自由にみずからの欲求や個性を実現させる制度

第2問 次の文章を読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。

ある日、「私」は友人たちと、料理人の腕前が評判の高級中華料理店で食事をしていた。ふと気づくと、一人の大学生が、隣のテーブルに腰を下ろしたところだった。

「困ったことになったぞ」と、私はおもった。

二十年ほど昔、私自身が学生の頃、こういう立場に追いこまれたことがあったような気持になった。記憶を探ったが見つからない、しかし、その気持だけは鮮明である。

椅子に坐った青年の横顔が見える。

やや気取った手つきでメニューを開いた。間もなく、横顔が緊張してゆくのが分った。メニューには、料理の金額が記入してある。ところどころ「時価」と書いた項目もある。金のないとき、「時価」という文字を見るのは厭なものだ。私の体験では、それは、途方もなく高価、という替りの文字としてしか、眼に映ってこない。

青年の指が、メニューの頁をめくった。頬から顎にかけて並んでいる面皰の痕が、目立つ。彼は自分の置かれた事態を察したようだ。<sup>(ア)</sup>同じ頁を眺めているその時間が、ひどく長く感じられた。

もしも私が彼だったら、どうする。椅子から立上り、

「勘違いをして入ってしまったから、帰る」

と言いつ残して、戸口に向おう。財布に金が乏しいのは、恥すべきことではない。場違いの場所で、なんとか辻褄を合せようとするほうが醜態になる。しかし、そうと分っても、私が彼だとして、そのように闊達に振舞えるだろうか。振舞いにくい年頃といえる。

それが出来ないとすれば……。彼の手にあるメニューを、あと二枚ほど繰れば、中華ソバの項目が出てくる。なるべく安いソバだけ注文しても、拒否することは店の側としてはできない。

しかし、彼はメニューを閉じて、白いテーブルクロスの上に置いた。

「馬鹿」

と、私はおもった。刺戟的気分になっているのが分る。<sup>(イ)</sup>あらためて、彼の面皰の痕に視線を当ててみる。残酷な興味も動いているのに気付いた。

彼は、<sup>(注1)</sup>女給仕を呼んだ。

「なにか、麺類はありませんか」

よろしい、その調子で頑張りたまえ、と私はおもう。その言い方に気取りがあるのが気にかかるが、そのくらいはやむをえない。女給仕は背をかがめて、卓の上のメニューを開いた。メニューの上に指を当て、そのままの姿勢で顔を彼の方に向けて何か言っている。その恰好から、親身の感じが漂った。

(9) 一区切りついたと私はおもい、自分の料理の皿に戻った。

白い陶器の碗に入ったソバを食べ終り、青年は(注2)折靴おりかほんを提げて、出口に向った。その靴は、それまで彼の椅子の傍の床の上に置いてあった。

出入口の横に、勘定場があり、レジスターのうしろに少女が坐っている。白い細長い紙片と一緒に、小額紙幣が二枚、少女の前に置かれた。(10) 実に素早く、置かれた。少女が紙片を調べ、何か彼に話している。彼は頷うなずいて、ポケットを探り始めた。

勘定場と私の卓との間には、かなりの距離があるのに、青年の様子を仔細しさいに眺めている自分に、ふと嫌悪の気持が動いた。しかし、私の中にある記憶が私を刺戟しつづけ、眼が彼から離れない。

その記憶……。そのとき、私は雑誌記者をしていた。原稿の催促のために、(注3) 国電に一時間ほど乗って、近頃の町で降りた。降りたその場で帰りの切符を買ったのは、どういふつもりだったのか、思い出せないが、虫が知らせたということかもしれない。

用件を済ませ、駅前の喫茶店に入って、コーヒーを飲んだ。はげしい空腹を覚えたので、ケーキを注文した。酒に興味をもっていた時期で、喫茶店でケーキを食べるのは、何年ぶりのことだった。

食べ終ったとき、ふと厭な気持がした。ポケットの金をかぞえると、五円足りない。残っている金の額は、いつも頭に入っている筈はずなのに、五円足りないのである。どこかで計算違いがあったようだ。はじめての町で、馴染なじみのない喫茶店である。

勘定場へ行き、事情を話した。レジスターのうしろにいる少女は、黙って私の顔を見ている。咎とがめる眼ではない。呆あきれたような、事情がよく嘸なみ込めないような眼である。五円硬貨一つのために、そして甘ったるいケーキのために、こ(11)ういふ情況けいじょうになったことが私を腹立たしくさせ、やがて気持が滅め入りこんだ。

……そのときから十五年後の現在、勘定場の前に立った彼は、ポケットを探っている。

やがて、何枚かの銀貨を掴つかんだ手が少女の前に置かれ、彼は無事にその店を出た。少女は近くに立っている同僚と眼を見合せ、笑い顔になり、ゆっくり胸を撫なでおろす手つきをしてみせた。

少女の気持は、青年に味方している。しかし、その心の片隅には、高級料理店の一員という立場から出てくる優越感に似たものがある。「カ　　」(12)と心持こころもちが含まれている……。そういうことを感じさせる少女の素振りだった。そして、その少女に、私の気持も似ていたかもしれない、とおもった。

(吉行淳之介『食卓の光景』新潮社による)

注 1 女給仕……ウエイトレス

2 折靴……書類などを入れて携行する、二つに折りたたむ靴

3 国電……国鉄(現JR) 電車の略

問1 傍線部(ア)「同じ頁を眺めているその時間が、ひどく長く感じられた」とあるが、このとき「私」はどのような状況にあるか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 26。

- ① 青年の無謀さに奇異の念を抱き、注意深くその動向をうかがっている。
- ② 青年の若さに羨望を感じ、同様の経験を思い起こして懐かしんでいる。
- ③ 青年の葛藤に対し、年長者の立場から助言したいとじりじりしている。
- ④ 青年の心中のためらいを想像し、次の振舞いを注意して待っている。
- ⑤ 青年の当惑ぶりに大いに共感し、青年の痛みをわがことと感じている。

問2 傍線部(イ)「あらためて、彼の面皔の痕に視線を当ててみる」とあるが、このときの「私」の心情説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 27。

- ① 青年の反応が予想と違っていたので、興味をそそられ、彼の考えがもつと知りたくなっている。
- ② 青年の反応が予想以上に幼かったので、改めて青年の年齢を、外貌から確認しようとしている。
- ③ 青年の行動が望ましいものとは違ったため、非難がましい気分が湧き、そのことに驚いている。
- ④ 青年の行動が危惧していた方に振られたため、一層引き込まれ、経過を見極めようとしている。
- ⑤ 青年の態度が見当外れのものであったので、いっそ痛い目にあえばいいと思いはじめている。

問3 傍線部(ウ)「一区切りついた」とあるが、「私」がそのように思った理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 28。

- ① 女給仕が店の格にそぐわない親切な性質の持ち主と見受けられて、安心してよいと判断したから。
- ② 女給仕の応対が彼の身になって行われているように見え、当面の危機は回避できたと考えたから。
- ③ 青年が女給仕と対等に渡り合っている様子であったため、もう負けることはないと判断したから。
- ④ 青年が女給仕の意見を素直に受け入れている様子だったので、これでもう心配ないと考えたから。
- ⑤ 青年が悪い流れを断ち切り、女給仕を呼ぶ良い選択をしたので、これでうまくいくと考えたから。

問4 傍線部(エ)「実に素早く、置かれた」とあるが、このとき想定できる青年の心情として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 29。

- ① 勘定を速やかに済ませて、思いがけず神経を使うことになったこの場から、早く立ち去りたい。
- ② スマートに滞りなく勘定を済ませて、内心の疲労を女給仕に悟られる前に、ここから去りたい。
- ③ 実は所持金がぎりぎりしかないが、それに気付かれたくないので、まずは札だけ出しておこう。
- ④ 所持金はぎりぎりしかないが、値引きしてくれるかもしれないので、今は札だけ出しておこう。
- ⑤ いくら高級な店だといっても、大したソバではなかったから、紙幣二枚で足りないはずはない。

問5 傍線部(オ)「こういう情況」とあるが、これが指し示す内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 30。

- ① 特に欲しくもないケーキを食べたあとで、五円玉がもう一つ要ると判明し、喫茶店のレジの少女の視線に自尊心を傷つけられるはめになったこと。
- ② 予定の原稿が取れない不測の事態に、めったに食べないケーキの代金が払い切れなかったという恥ずかしさが加わり、気持が沈んだということ。
- ③ 普段食べないものを食べ、普通なら絶対しないつまらない過ちを犯し、初対面の少女からは妙な目つきで見つめられ、自分を見失ってしまったこと。
- ④ ほんの小額の所持金の不足と間に合わせに食べたケーキのせいで、初対面の少女を当惑させ、自分もばつの悪い思いをしなればならなかったこと。
- ⑤ 十五年前の、所持金を正しく把握せずにケーキを注文してしまったという些細な過ちが、初めて行った喫茶店の少女を呆れさせてしまったこと。

問6 空欄へカゝに当てはまる最も適当なものを、以下の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 31。

- ① 顔を洗って出直しなさいって、言いたいところだったわ
- ② 身の程を知らない人って、いらいらさせられるわね
- ③ 何だか危なっかしくて、見ていられなかったわ
- ④ ああいうタイプの若い男には、ご遠慮願いたいものだわ
- ⑤ 間違って飛込んできて、手数がかかって仕方がないわ

第3問 次の文章を読んで、後の問い(問1～5)に答えよ。

加賀・越中は、世に名高き熊多き所なり。(注1)熊胆などもこのあたりより出づるを極上の品と定む。

余、越中に在り **A** 時、飛驒境の山中の人に出で会ひて、熊を取ることを聞くに、その獵者もまた勇猛なり。冬に到り、雪降り積もる時は、熊みな穴に入り住む。その時獵者ども、薪木を多く持ち行きて、熊の住める穴の中へ投げ入るるに、熊怒りてその薪木をうしろの方へ押しやる程に、穴の奥の方次第につまりて、その熊だんだんに穴の口の方へ出で、つひには穴みなつまりて、熊穴の外へ出づる時、長さ(注2)一間ばかりの手鎗を持つて、(注3)月の輪のあたりをねらひて突くなり。熊突かれながら、その鎗をかなぐり捨てんとして、引く程に、いよいよ鎗深く身を貫く。獵者は始終その鎗をはなさず取りつきゐて、加勢の獵者を待つ。加勢の獵者走りかかりて、(注4)まさかりをもて、熊の頭を打ちて取ることなり。もし鎗を突き損じ **B** ば、熊の掌にて鎗の穂先を握るに、丈夫なる鎗の身、三つ四つに折れ砕く。さあれば、獵者もつかみ殺さるるとなり。余、これを聞きて、「かく(注5)手詰の危き働きをせんよりは、など鉄砲にてはうた **C** 」といへば、「鉄砲はなほあやふし」といふ。「いかに」といふに、「もし月の輪を打ちはずす時は、たとへ鉄砲の玉熊の身を貫くといへども、たちまち飛びかかりて、つかみ殺すなり。鎗は、獵者その鎗に取りつきある故に、飛びかかる事あたはず、されば命を失ふことなし」となり。「ただ手負ひの熊には、なかなか近づきがたきものなり。手負はざる間は、おだやかなるものゆゑ、近づくと甚だ自由なり」と語れ **D** 。

誠に漁者は水に勇に、獵師は山に勇あり。盜賊はまた利欲に勇あり。(c)みなその習ふ所に勇ありと思はる。

(橋南谿『東遊記』による)

(注) 1 熊胆―熊の胆囊を干して作った漢方薬。くまのい。

2 一間―約一・八メートル。

3 月の輪―熊ののどの下にある、半月形の白い毛でおおわれた部分。

4 まさかり―木を伐るのに用いる大形の斧。

5 手詰―肉迫してきびしく攻めたてること。

問1 文中の空欄 **A**、**D** に入る助動詞の終止形は、A「き」、B「ぬ」、C「ず」、D「り」である。それぞれの空欄にあて

はまる最も適当な語を、次の各群のうちから一つずつ選べ。解答番号は **32**、**35**。

- |           |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| D         | C         | B         | A         |
| ①         | ①         | ①         | ①         |
| らず        | に         | せ         |           |
| ②         | ②         | ②         | ②         |
| り         | ぬ         | ぬ         | き         |
| ③         | ③         | ③         | ③         |
| る         | ざら        | ぬる        | し         |
| ④         | ④         | ④         | ④         |
| れ         | ざり        | ぬれ        | しか        |
|           | ⑤         | ⑤         |           |
|           | ざる        | ね         |           |
| <b>35</b> | <b>34</b> | <b>33</b> | <b>32</b> |

問2 二重傍線部(ア)～(ウ)の動作の主体として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は(ア)＝36、(イ)＝37、(ウ)＝38。

- ① 熊                      ② 猟師                      ③ 加勢の猟師                      ④ 余                      ⑤ 漁師

問3 傍線部(a)「鉄砲はなほあやふし」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は39。

- ① 鉄砲は熊よりももっと危険だ。  
② 鉄砲の扱いは鎗よりもっとむずかしい。  
③ 鉄砲はやはり手に入れるのが困難だ。  
④ 鉄砲はやはり命中させるのがむずかしい。  
⑤ 鉄砲はやはり鎗よりもっと危険だ。

問4 傍線部(b)「されば命を失ふことなし」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は40。

- ① それならば猟師は命を失うことはない。  
② それならば熊は命を失うことはない。  
③ それゆえ猟師は命を失うことはない。  
④ それゆえ熊は命を失うことはない。  
⑤ だからこそ猟師が熊の命を奪うことはない。

問5 傍線部(c)「みなその習ふ所に勇あり」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は41。

- ① 人はみな、それぞれ訓練をしっかりと受けることで、勇氣も湧<sup>わ</sup>いてくるのである。  
② 人はみな、それぞれの専門の道において勇氣をもらっているものである。  
③ 専門家はみな、練習しないうちは臆病であるが、慣れてくるうちに勇氣も湧<sup>わ</sup>いてくる。  
④ 勇氣というものは、全部の訓練をしっかりとすることによって得られるものである。  
⑤ 勇氣というものは何事においても必要で、勇氣があれば大きな利益が生まれてくる。